

3年 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月6日(金)第5校時

場 所 3年教室

1 単元名 場面のうつりかわりをとらえて感想をまとめ、交流しよう

2 教材名 「ちいちゃんのかげおくり」 あまん きみこ 作

3 指導の立場

(1) 教材について

本教材「ちいちゃんのかげおくり」は、児童が初めて出会う戦争作品である。幼い少女「ちいちゃん」を主人公とし、かげおくりという素朴な遊びを取り上げながら、戦争の悲惨さと恒久平和への願いを訴えた文学作品である。5つの場面に一行空きで分けられており、場面の移り変わりがはっきりととらえやすい構成になっている。また、それぞれの場面で描かれる出来事、情景はどれも児童の心を動かすものである。そこで、場面の移り変わりに注目しながら読み、文を引用したり場面をまとめたりして文章の叙述に基づいた感想を書く力を付けさせたい。

この単元における言語活動は「感想をまとめ、交流する」ことである。児童はこれまでに、2年生「スイミー」「わたしのおねえさん」や3年生の「もうすぐ雨に」で、心に残った言葉や文に着目し、人物の行動を自分と比べながら理由を明確にして感想をまとめる学習をしてきた。本単元でも、自分の意見や感想を述べる際に理由を明確にした感想文が書けるようにしたい。さらに、感想文を交流することで、意見交流が活発になり、読みが深まることにつながると考える。

さらに、戦時中の子どもの思いが分かるような本を並行読書し、仲間と交流することで、本教材の読みを深めることにつなげるとともに、戦争や平和について深く考える機会としたい。

(2) 児童の実態

男子16名、女子14名、計30名の学級である。読書が好きな児童が多く、いろいろな種類の本を進んで読むことができています。しかし、戦争に関する本を読んでいる児童はあまりいない。戦争を題材にした本を教師が読み聞かせたり、教室に戦争に関係する本のコーナーを作ったり、親子読書の活動で保護者の読み聞かせで取り上げたりして、関心をもてるようにしたい。

国語の学習では、大切な言葉を見つけて線を引いて自分の考えを書き込むことは、多くの児童ができるようになってきた。しかし、中には、見つける言葉が少なかったり、的確に短くできなかったりする児童もいる。これが、下記の様子や理由を読み取れないことと関連しているとも考えられるので、比喩や「から。」などの手がかりにする言葉を示す支援や、線が引けない児童には、予め線が引いてあるプリントを準備して渡すなどの支援をしたい。

(レディネステストの結果)

① 主語を正しく読み取ることができる。(完答)	② 様子を正しく読み取ることができる。	③ 理由を正しく読み取ることができる。
○71% ×29%	○46% △11% ×43%	○32% △11% ×57%

4 研究内容との関わり

【研究内容1 単元指導計画の工夫】

年間の系統性を明確にし、単元を貫く課題や出口の言語活動に向かって読み進められるような単元指導計画を作成する。

「単元（読むこと領域）における文学的文章と言語活動の関連」

	単元名・教材名	ねらい	着目する言葉	単元を貫く課題	単元を貫く言語活動
1 学期	きつづきの商売	◎場面の様子や違いに注意しながら音読を工夫し、発表することができる。	・人物の行動と会話 ・繰り返し・擬音	登場人物の行動から、様子を想像し、音読しよう。	登場人物になりきって、音読発表会をしよう。
	もうすぐ雨に	○場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化を叙述をもとに想像して読み、感想を交流することができる。	・音 ・様子を表す言葉 ・繰り返し	ぼくの行動、様子からぼくの気持ちを想像し、感想文を書こう。	登場人物の気持ちを想像して感想を書き、感想交流会をしよう。
2 学期	ちいちゃんのかげおくり	◎場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読み、理由を明らかにした感想文を書いて、交流することができる。	・場所や様子の移り変わり ・行動や会話	ちいちゃんのしたことや周りの様子から、ちいちゃんの気持ちを考え、理由をはっきりさせて、感想文を書こう。	感想文を書いて、学級の仲間と発表し合おう。
	三年とうげ	○場面の移り変わりや登場人物の気持ちを想像しながら読み、民話や昔話のおもしろさを見つけ、伝えるように紹介することができる。	・場面の移り変わり	おじいさんの様子から、おじいさんの気持ちを考え、おもしろさが伝わるような紹介文を書こう。	昔話を読んで、おもしろさが伝わるように、紹介文を書こう。
3 学期	モチモチの木	◎登場人物の行動や会話から、人物の人柄や気持ちを捉えて読む。並行読書した本について、心に残ったことを中心に、本文を引用して、感想を伝え合うことができる。	・場面の様子 ・人物の行動や会話	行動や会話から、人柄や気持ちを考え、本文の引用をして、感想を書こう。	自分の選んだ本の感想を新聞にして、紹介しよう。

【研究内容2 児童が楽しく学べる指導過程の工夫】

(1) ユニバーサルデザインの3つの視点を明確にした指導過程

焦点化	視覚化	共有化
○深めの発問を用意し、話し合いを焦点化することで、主人公の気持ちに迫る。 ◎モデル文を提示することで、明確な理由を付けた感想が書けるようにする。	○挿絵や物語の組立表を活用することで、場面の移り変わりや気持ちの変化が捉えられるようにする。 ○根拠となる言葉と読み取った気持ちを板書に整理し、主人公の気持ちの変化が捉えやすいようにする。	○ペア交流することで、自分の考えを深めたり、友達の考えとの違いに気付いたりできるようにする。 ○モデル文や仲間の文を紹介することで、感想が書けるようにする。

(2) 学習状況に応じた支援

- ・「読みのポイント」を提示したり、まとめ方を記入した学習プリントを提示したりする。
- ・線が引いてあるプリントを、実態に応じて渡す。

5 単元の目標

場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。

読（１）ウ

6 単元指導計画（全 11 時間）

時数		ねらい	学習活動	評価規準	
〈単元を貫く課題〉 ちいちゃんのしたことや周りの様子からちいちゃんの気持ちを考え、理由をはっきりさせて、感想文を書こう。 〈単元を貫く言語活動〉 感想文を書いて、学級の仲間と発表し合おう。					
一次	1	題名から物語の内容を想像するとともに、単元名、リード文から学習のめあてを確認し、物語を通読して初発の感想をもつことができる。	1 本時の課題をつかむ。 お話を読んで、初めの感想を書こう。 2 「感想をまとめ、発表しよう」という単元名から学習のめあてと見通しをもつ。 3 教師の範読を聞く。 4 あらすじを確認し、出来事や主人公について感想を書き、交流する。 5 教師の感想文（「ちいちゃんのかげおくり」以外の戦争を題材にした物語）を聞き、学習の最後に、心に残ったことを中心に感想文を書き、交流することが分かる。	学習のめあてを確認し、物語を通読して興味をもち、初発の感想をもてる。 【関・意・態】	
	2	あらすじを確かめる活動を通して、5つの場面に分けられることに気付き、物語の組立をつかみ、学習計画を立てることができる。	1 本時の課題をつかむ。 あらすじをつかんで物語の組立について考えよう。 2 どんな出来事が起こったか、確かめながら音読し、あらすじをつかむ。 ・出来事と登場人物をもとにあらすじをまとめる。 ・5つの場面に分ける。 3 場面分けをもとに、学習計画を立てる。	物語の組立について知り、あらすじをもとに話し合うことを通して、5つの場面に分けている。 【読（1）ウ】	
二次	3	「ちいちゃん」や家族の言動や情景をもとに、家族の心情を想像しながら読むことを通して、「ちいちゃん」や兄の無邪気な気持ちや、両親が大きな不安をもっている気持ちに気付き、友達と感想を交流することができる。	1 本時の課題をつかむ。 「かげおくり」をしているちいちゃんは、どんな気持ちか考えて、感想を交流しよう。 2 第1場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流をする。 ・「かげおくりって、なあに。」「まばたきしないよ。」「すごい。」の言葉から、ちいちゃんやお兄ちゃんの無邪気に楽しむ気持ちを読み取る。 4 父母の不安な気持ちを考える。 かげおくりをしているお母さんやお父さんは、ちいちゃん達と同じ楽しさだろうか。 ・「出征する前の日」「今日の記念写真」「いくさ」から、生きて家族に会えないかもしれないという両親が不安な気持ちをもっていることを読み取る。	ちいちゃんと兄の無邪気な気持ちと、両親の不安な気持ちの違いに気付いて、心情を読み取っている。 【読（1）ウ】	1 場面の感想を書く。

		5 本時を振り返り、感想を書く。 6 友達との考えの違いを意識しながら交流する。		
4	「ちいちゃん」の言動や周りの様子をもとに、心情を想像しながら読むことを通して、「ちいちゃん」のひとりぼっちになってしまった不安な気持ちに気づき、友達と感想を交流することができる。	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 ひとりぼっちになってしまったちいちゃんが、どんな気持ちか考えて、感想を交流しよう。 2 第2場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流をする。 ・ちいちゃんの言動や周りの様子から、ちいちゃんの気持ちを想像する。 ・「はぐれました」「お母ちゃん、お母ちゃん」「さけびました」「ひとりぼっち」から、必死に火の手から逃げる間に、母や兄とはぐれ幼いちいちゃんが不安でいっぱいな気持ちを読み取る。 4 家族がだれもいない不安を読み取る。 「たくさんの人がいるのに、どうして、「ひとりぼっち」なのだろうか。」 ・母と兄とはぐれてしまった。たくさんの人がいても家族ではない。家族に会いたい強い思いがある。 5 本時を振り返り、感想を書く。 6 友達との考えの違いを意識しながら交流する。	ちいちゃんの言動や周りの様子から、ちいちゃんのひとりぼっちになってしまった不安な気持ちと家族に会いたい気持ちを読み取っている。 【読 (1) ウ】	2 場面の感想を書く。
5	「ちいちゃん」の言動や周りの様子をもとに、心情を想像しながら読むことを通して、壊れた防空壕でひとりで家族を待つ「ちいちゃん」の不安な気持ちに気づき、友達と感想を交流することができる。	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 家のぼうくうごうで一人でまつ「ちいちゃん」は、どんな気持ちか考えて、感想を交流しよう。 2 第3場面を役割読みをする。 3 一人読みをし、全体交流をする。 ・ちいちゃんの言動や周りの様子から、ちいちゃんの気持ちを想像する。 ・「深くうなずきました」「また、深くうなずきました」「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ」から、つらい気持ちを我慢して母と兄の帰りを信じてまっている「ちいちゃん」の気持ちを読み取る。 4 ちいちゃんが幼いことを再度確かめる。 「一人でまっているちいちゃんは、どうしてほかの人に助けをもとめないのだろうか。」 ・幼いちいちゃんは待つしかない。 ・家族に会いたい強い思いがある。 5 本時を振り返り、感想を書く。 6 友達との考えの違いを意識しながら交流する。	ちいちゃんの言動や周りの様子から、ひとりぼっちで待つ「ちいちゃん」の不安な気持ちと家族に会いたい気持ちを読み取っている。 【読 (1) ウ】	3 場面の感想を書く。
6 本時	「ちいちゃん」の言動や周りの様子をもとに、心情を想像しながら読むことを通して、ひとりぼっちでかげおくりをする「ちいちゃん」の家族に会いたい気持ちや空の上で会	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 ひとりぼっちでかげおくりをする「ちいちゃん」は、どんな気持ちなのかを考えて、感想を交流しよう。 2 第4場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流をする。 ・ちいちゃんの言動や周りの様子から、ちいちゃんの気持	ちいちゃんの言動や周りの様子から、ひとりぼっちで待つ「ちいちゃん」の不安な気持ちと家族に会いたい気持ちを読み取っている。	

	えた気持ちに気付くとともに、空の上でしか会えなかった戦争の悲しさに気付き、友達と感想を交流することができる。	ちを想像する。 ・第1場面の家族揃ってのかげおくりと比べる。 ・「暑いような寒いような」「いつのまにか」 ・「空からふってきました」「ふらふらする足をふみしめて」 ・「たった一つのかげぼうしを見つめながら」 ・「重なって」 ・「すうっとすきとおって、空にすいこまれて」 ・「きらきらわらいながら」 4 ちいちゃんのことをどう思うのか、自分の感想をもつ。 家族と会えた「ちいちゃん」は本当に幸せだったのだろうか。 ・ひとりぼっちはさびしいから、会えたから幸せだ。 ・会えたけど、死んでしまったから、幸せではない。 5 本時を振り返り、感想を書く。 6 友達との考えの違いを意識しながら交流する。	【読 (1) ウ】		4 場面の感想を書く。
7	何十年後の町や子ども達の様子をもとに、平和な様子を読み取り、空の上から見ているちいちゃんの言葉を想像することを通して、平和の大切さや戦争の悲惨さに気付き、友達と感想を交流することができる。	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 何十年もたって、町がどのように変わっているか読み取り、感想を交流しよう。 2 第5場面を音読する。 3 一人読みをし、全体交流をする。 ・家がたくさんある。・子ども達が楽しそうに遊んでいる。 ・何十年も経って、平和になっている。 4 戦争でなくなったちいちゃんの立場で、現在の様子を見た感想をもつ。 楽しそうに遊んでいる子どもたちを、空の上から見ている「ちいちゃん」は、どんなことを言っていると思うか。 ・平和になってよかったね。 ・楽しく遊べるから、うらやましいな。 ・戦争で死んでしまうなんてことが、もう起こらないようにしてね。 5 本時を振り返り、感想を書く。 6 友達との考えの違いを意識しながら交流する。	町や子ども達の様子から、平和な様子を読み取っている。 【読 (1) ウ】		5 場面の感想を書く。
8・9	心に残ったことを中心にして、理由を明確にして、感想文を書き、交流することで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。	1 前時までを振り返り、本時の課題をつかむ。 一番心に残ったことを中心にして、感想文を書き、交流しよう。 2 今までの、場面ごとの感想を読み返す。 3 中心にすることを決めて、感想を書く。 ・引用、感想、理由が入っていて分かりやすい。 ・「終わり」にどのようなことを書けば分かりやすいのか、例から学ぶ。 4 友達との考えの違いを意識しながら交流する。 5 感想文を交流した後、自分の考えの変わったところを話し合おう。 〇〇さんは、ぼくと同じところもあったけど、□□について～のようなことが書いてあって、そこがいいなあと思った。	理由を明確にして、感想文を書いている。 【読 (1) ウ】 感想文を交流し合うことで、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気付いている。 【読 (1) オ】		全体の感想を書く。

三 次	1 0	「ちいちゃんのかげ おくり」の感想文の書 き方を振り返り、自分 の選んだ本の感想文 を、理由を明確にして 書くことができる。	1 本時の課題をつかむ。 自分の選んだ本で、一番心に残ったことを中心にし て、感想文を書こう。 2 「ちいちゃんのかげおくり」の感想文の書き方を振り返る。 ・中心にすることを決める。 ・中心の部分に、引用、感想、理由を入れる。 ・終わりには、強く自分が言いたいことを書くことを知る。 3 感想自分が強く思ったことが伝わる感想文を書く。	一番心に残ったことを中心に、理由がわかるような、「初め」「中」「終わり」の形が整った感想文を書いている。 【読 (1) ウ】	選んだ本の感想を書く。 
	1 1	一人一人の感じ方に違いがあることに気付 き、考えたことや感想 をまとめることができ る。	1 本時の課題をつかむ。 感想文を交流し合い、その感想を発表しよう。 2 同じ本を読んだ子ども同士で、感想を交流し合う。 ・感想の感想を書く。 3 違う本を読んだ子と感想文を交流し合う。 ・感想の感想を書く。 4 感想文の交流会の感想を話し合う。 ・いい本がたくさんあるから、ぜひ読もう。 ・〇〇さんの感想は、家の人に聞いたことが書いてあってよかったな。	友達の感想文を読んで、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気付いている。 【読 (1) ウ】	

7 本時のねらい

「ちいちゃん」の言動や周りの様子をもとに、心情を想像しながら読むことを通して、ひとりぼっちでかげおくりをする「ちいちゃん」の家族に会いたい気持ちや空の上で会えたうれしさを読み取るとともに、空の上でしか会えなかった戦争の悲しさに気づき、友達と感想を交流することができる。

8 本時の展開 (6/11)

	学習活動	○指導・援助(◎重点) ◆評価規準
つかむ	1 前時の学習を振り、本時の課題をつかむ。 ・第3場面のひとりで待つちいちゃんの様子を振り返る。 ・本時の課題をつかむ。 ひとりぼっちでかけおくりをする「ちいちゃん」は、どんな気持ちなのかを考えて、感想を交流しよう。	○指導・援助(◎重点) ◆評価規準 ○掲示物やプリントから、前時までの学習場面を思い起こすように促す。視覚化 ○読みのポイントを掲示物で確認する。視覚化 ○一場面のかげおくりについて、挿絵などで確認する。視覚化 ・行動 ・様子・会話の後ろの言葉・色 ・前の場面と比べる。 ・自分の経験や他の本と比べる。
考える	2 本時の学習の見通しをもち、役割読みをする。 ・読みのポイントを確認する。 3 一人読みをし、全体交流をする。 ・ちいちゃんの様子や周りの様子が分かる言葉に線を引き、自分の考えを書く。 「暑いような寒いような」…ちいちゃんの体が弱っている。 「ふらふらする足をふみしめて」…かなりつらい。 「ふってきました」…空＝天国 家族は死んでいる 「たった一つ」…ちいちゃんはひとりぼっち 「くっきり」…空で家族と会えた 家族は天国にいた 「白いかげが四つ」…第一場面と同じ4人のかげぼうし 家族4人一緒になれた 「一面の空の色」…家族と同じところに來られた 安心 「きらきらわらいながら」…家族と会えてうれしい	○課題につながる言葉に着目できない児童には、挿絵を示したり、「たった一つ」「くっきり」の言葉から第一場面のかげおくりと比較させたりする。視覚化 ○線が引いてあるプリントを実態に応じて渡す。 ○一人読みでの各自の考えを捉えておいて意図的に指名する。
深める	4 ちいちゃんのことをどう思うのか、自分の感想をもつ。 家族と会えた「ちいちゃん」は本当に幸せだったのだろうか。 ・家族と会えたから、ちいちゃんは幸せだ。 ・会えたけど空の上だから、幸せではない。 ・家族みんなの命をうばった戦争は怖い。幸せではない。 ・戦争が起こらなかったら、死ななくてすんだのに、ちいちゃんがかわいそうだ。ちいちゃんは幸せでない。	○「ちいちゃんが家族に会えたのは空の上だけど、それでもちいちゃんは幸せなのかな。」と補助発問する。 ○自分の考えを伝え、また仲間の考えを聞いて深められるようにペアで交流する。共有化 ◎理由を説明するときの言い方の例を提示する。焦点化
まとめる	5 本時を振り返り、感想を書く。 「きらきらわらいながら」のところが心にのこりました。ちいちゃんは、ひとりぼっちでかけおくりをしたけれど、空に家族みんながいてやっと会えたので、すごくうれしかったと思うからです。 でも、ちいちゃんも家族も死んでしまうなんて、みんなの命をうばう戦争はこわいと思いました。 6 自分の立場を明らかにして話すことで、友達との考えの違いを意識しながら交流する。 ・ぼくは、ちいちゃんが家族と空の上で会えたので、よかったと思っていたけど、死んでしまって会えるのはとても悲しくてかわいそうなことだと友達の感想を聞いて思いました。	◆評価規準 ちいちゃんの言動や周りの様子から、ひとりぼっちで待つ「ちいちゃん」の不安な気持ちと家族に会いたい気持ちや、空の上で会えたうれしさを読み取っている。 【読(1) ウ】

